

2023（令和5）年度卒業生 就職活動体験記



岩国市役所

経済情報学科

有馬 拓海

出身校：
山口県立高森高等学校

私は民間企業を受けず公務員一本に絞り、就職活動を行いました。一般的に、公務員は採用の合否が確定する時期が民間企業よりも遅いため、周囲の友人は内定の通知が届く中で焦りや不安を感じるようになりました。このような焦燥感
は公務員志望の方に限らず、感じ得ることだと思います。

私がそんな状況を打破できたのは、きっぱり気持ちを割り切ってオンオフの切り替えが出来たからだと思っています。常に頑張り続けても、落ち着くことが出来ずに視野が狭まり本来の実力が発揮できない悪循環に陥ってしまいます。そこで「今日はここまでにして休む日にしよう」と自分にプレッシャーをかけずにオフの時間を作ることが大事だと実感しました。

また、自分について、志望する自治体や企業について多くの視点から知ることも重要です。自己分析して自分の長所を見出すことも1つの手段ですが、家族視点、友人視点から見た自分の長所を聞くことで、より自信の持てる長所を見つけることに繋がります。志望する自治体についても、その自治体が属する地域に住んでいる人視点や別の地域に住んでいる人視点など多くの視点から知ることで、俯瞰的に分析出来て面接やエントリーシート作成の参考になると思います。

最後に、公務員試験は一次試験の筆記試験を通過することが前提です。試験勉強が一番面白くない辛いことだと思います。しかし、耐えて踏ん張った分だけ試験当日落ち着いて臨めます。応援しています。



株式会社広島銀行

経済情報学科

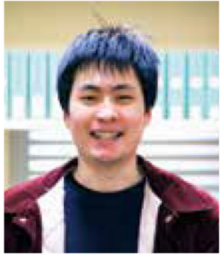
吉野 綾華

出身校：
広島県立祇園北高等学校

私が就職活動を通して大切だと感じたことは「誰かに頼る」事です。就職活動を始めた当初は、就職活動は自分一人でやるものだと思っていました。その為、将来の夢が無かった私は自分の強みは何なのか、自分はどのような仕事に向いているのか分からず、ただエントリーシートの提出や面接をこなすだけの毎日でした。その為、選考で落ちてしまった時には原因が分からず抱え込んでしまうことも多くありました。そんな中、私は「人に頼る」一歩を踏み出しました。友人や先輩とは、毎日のように面接練習や自己分析を行いました。キャリアサポートセンターの方々には、エントリーシートの添削や毎週のように面接練習を行って頂きたくさんのアドバイスを頂きました。また、就職活動を行う中での不安や悩みも聞いて頂き心の支えになりました。その結果、就職活動を通し自分では気づかなかった強みや他人から見た自分の印象など自分の武器を知ることができました。

就職活動をする中で、選考が思い通りに行かず悩んだり、自己分析で自分について思い詰めたりすることもあるかもしれません。その時は、友人や家族、キャリアサポートセンターの方々に頼ってみてください。自分では、気づかなかった新たな学びがあると思います。

最後になりますが、自分のペースでたくさんの人を頼りながら頑張ってください。皆さんが輝ける企業とすてきなご縁があることを祈っています。



株式会社グラフィック

日本文学科

国則 達也

出身校：
大阪府立四条畷高等学校

大学の就職活動では高校までの受験と違い、「皆と違うこととして、自由にアピールすること」を求められます。つまり、自分なりの個性や強みといったものです。

受験では全員が前へならえ右向け右で、同じ科目を勉強し、共通の問題を解き、得点という画一的な指標で可否を判定します。

しかし就活では、会社によって評価したり重視したりする点も異なれば、学生側が自分のどこをアピールするのも自由なのです。(学力試験もあるにはありますが、それは全体のほんの一部でしかありません。)

そこで大事なのは、大学生活でいかに豊かな経験や学びを経て、自分なりの個性や強みを見つけたり育んだりしていけるかということなのです。

本文章を読む多くの方にとっては大学での就活なんて遠い話に聞こえるかもしれませんが。入学してからしばらくはそれで全然かまいません。大学生活を存分に楽しんでください。自分の興味や得意分野を軸に色々なことに挑戦し、様々なことを学び、経験し、キャンパスライフを彩る自分だけの色を作っていくてください。尾道という自然と情緒が溢れる唯一無二の土地が、そのような営みをさらに豊かなものにするのに一役買ってくれるでしょう。

そのなかでほんのすこしでも、将来のことを頭の片隅に留めてもらえれば幸いです。大学生活前半で出来上がった「自分だけの色」が、後半から始まる進路選択や就職活動において鍵になってくるはずですよ。

一年後、尾大の門をぐる皆さんが実りある大学生活を過ごしてゆけることを願っております。



株式会社タカラトミー

美術学科

大崎 日菜

出身校：
広島県立安古市高等学校

私は大学の3年生の後期に、『もっとこい！こい！広島ゲーム』というボードゲームを制作しました。そのゲームが私と就職先の会社を結びつけてくれました。

大学2年生の私は、自分のやりたいことを見失うときがよくありました。しかし、3年生が終わろうとする頃、ボードゲーム制作を通して、自分に合っているのはおもちゃ制作だと思いました。そして「1から物をつくる仕事」、つまり商品の企画や開発がやりたいのだと気づいたのです。

それからは、自分に合っていること、やりたいことにマッチする会社をひたすら探しました。

受ける会社を決めた後は、実際にゲームを面接会場に持参し、プレゼンテーションを行いました。就活中に感じたことは、自分の作品やこれまでの経験を伝えるのはもちろん、ありのままの自分を魅せることが何よりも重要だということです。

そして、面接では『易しい言葉でわかりやすく』。これが私が共有したい、一番大切なキーワードです。

私を支えてくれた友人、家族、先生方に心から感謝しています。4年間の大学生活の中で、自分の「やりたい！」を発見することは、1人では為し得ないことでした。

最後に、就職活動は様々な会社と出会い、自分の可能性を広げる素敵な時間です。

どうか楽しむことを忘れずに！